

非常災害対策訓練を実施しました

東北電力では、平成24年7月24日(火)、平成24年度上期非常災害対策訓練を実施しました。これに伴い、当発電所では発電所員(約110名)、協力会社(約20名)、青森県内5事業者*(約20名)により原子力災害訓練を実施しました。*青森県内5事業者:東北電力(株)、東京電力(株)、電源開発(株)、日本原燃(株)、リサイクル燃料貯蔵(株)

この訓練では、地震と津波の同時発生により、電源が喪失した場合に実施する各種対策にしっかりと対応できることや、重油タンクからの油流出による油火災を想定した複合事象への対応体制の有効性を確認するとともに、対応者の技術の向上・防災意識の高揚を図りました。

今回の訓練で抽出された課題を踏まえ、今後の訓練内容の改善や安全対策のさらなる充実につなげていきます。

1.事故想定

- 宮城県沖を震源とする地震(マグニチュード9.0、青森県内最大震度6弱)により、原子炉が自動停止
- 津波襲来(津波高さ15m)により、発電所の敷地高さを超えて浸水し、構内にがれきが散乱
- 非常用ディーゼル発電機が故障により停止し、原子炉の除熱機能が喪失。さらに、バックアップ電源である大容量電源装置が故障
- 地震の影響で傾いた重油タンクから油が流出し、油火災が発生

2.主な訓練項目と概要

●初期消火訓練

重油タンクからの油流出による油火災を想定した化学消防車による消火活動を実施



●緊急対策室の電源確保訓練

非常災害対策本部が設置される対策室への電源車からの電源を供給



●放射線モニタリング訓練

放射線量を測定するモニタリングポスト(常設)の停電に伴うバッテリー切れ等に備え、可搬式モニタリングポストを設置



●青森県内5事業者協力訓練

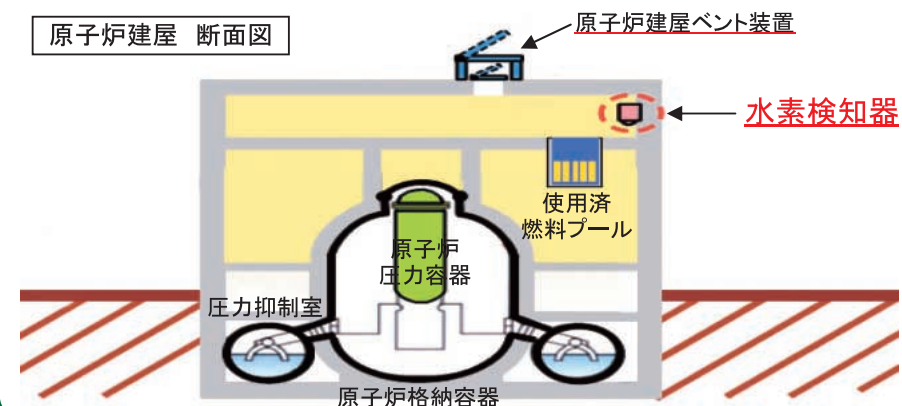
「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」に基づき、青森県内5事業者より支援要員が参集し、資機材の確認等を実施



水素検知器の設置について

電源喪失等の緊急時における作業安全に万全を期すため、原子炉建屋内の水素濃度を測定する『水素検知器』を、平成24年7月に設置しました。

この水素検知器は、電源喪失等の緊急時において、原子炉建屋内の水素濃度の傾向監視を目的として設置したものです。



水素検知器

放射線に関する豆知識

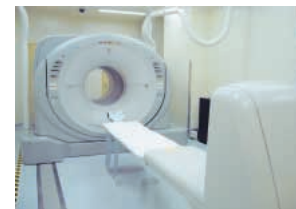
「放射線」の基礎知識について、シリーズで紹介しています。

放射線は、医療・工業・農業など様々な分野で幅広く活用されています。

(出典:電気事業連合会 放射線Q&A)

●医療分野での放射線利用

レントゲン検診・がん治療・輸血用血液のアレルギー反応抑制などに使われています。放射線には殺菌作用があるので、注射針など医療用具の滅菌にも活用されています。



PET装置

写真提供:(独)放射線医学研究所



医療器具の消毒・滅菌

●農業分野での放射線利用

放射線を当てることで、病気に強いナシやリンゴ、花の色や形が多彩な菊やバラ、病害虫に強く冬でも枯れない芝など多数の新品種が作りだされています。また、じゃがいもに放射線を当てると、発芽を防ぐことができます。



黒斑病を克服したナシ
(ゴールド二十世紀)

写真提供
(独)農業生物資源研究所放射線育種場

●工業分野での放射線利用

放射線が化学物質の分子構造を変える働きを利用して、素材の性能を強化することができます。ゴムの強度を高めたラジアルタイヤなどに用いられる特殊繊維など、工業製品の製造・加工に幅広く役立っています。



ラジアルタイヤの製造